

令和4年第1回(3月)市議会定例会本会議報告について

教育総務課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>【金井文彦議員】</p> <p>●子育て支援・教育の充実は誰一人取り残すことなく</p> <p>・「千曲型コミュニティスクール」の達成方針と事業内容について説明を。</p> <p>・「誰一人取り残すことのない支援体制の構築」について市の所見を。</p>	<p>【市長】</p> <p>本年度は、重点目標・達成方針について、「地域と学校とがパートナーとして連携・協働する千曲型コミュニティの推進」を掲げ、事業の実施をしてきた。</p> <p>各学校では、地域の方々をメンバーとした「学校運営委員会」を組織し、学校運営について意見交換を行ったり、学校支援ボランティアとして教育活動に参加するなど、学校と地域が一体となって「こんな子どもを育てたい」という目指すこどもの姿を共有しながら、地域に開かれた学校や信頼できる学級づくりに取り組んでいる。</p> <p>一例を挙げると、朝の会での「読み聞かせ」・「棚田での農業体験」・「放課後の学習支援」などがある。</p> <p>今後も、教育活動のなかでの地域の方々との触れ合いをとおして、故郷（ふるさと）に想いを寄せ、故郷を愛する子どもを育む事業を推進していく。</p> <p>市では、令和元年度に「子育て世代包括支援センター」を開設し、現在では、保健センターや子育て支援センターの他に、こども未来課家庭児童相談室・総合教育センターなど、子どもに関連する部署が連携し、支援の拡充を図っている。</p> <p>どの相談窓口においても、お受けした相談は内容に応じ、保健師、教育相談員、家庭相談員など専門の担当者につながる仕組みになっており、定期的に「子育てサポート会議」や「千曲市相談支援関係者連絡会議」を開催するほか、必要に応じて「個別支援会議」を行い、情報を共有し、一人ひとり異なる状況の子どもに合ったきめ細やかな支援につなげている。</p> <p>また、相談員の対応能力の強化についても、研修への参加や個別支援会議等でのさまざまな職種の意見交換</p>

・発達障害・不登校等に対する相談支援体制の抜本的な再構築を望むが、市の方針を。

【荻原光太郎議員】

●子育て世代から選ばれるまちについて

・中学入学の際の制服代などの家計負担が大きい。支援策はないか。

【再質問】

入学準備品で10万円近くかかるという保護者の声がある。教育費の軽減はできないものか。

●GIGA スクール構想について

①1人1台端末タブレットによる家庭学習の活用状況について

②半日授業により、学習カリキュラムの遅れはないか。

等を通じ、スキルアップを図っているところである。

議員ご指摘のとおり、不登校対策、「中間教室」等の在り方の見直し、子どもの新たな居場所作り、中学卒業後の支援など、解決すべき課題が山積していることは認識している。

今後、現状の支援体制を常に見返し、課題を整理しながら、千曲市に生まれ育つ子ども達の社会的な自立まで支えられるように、関係機関や庁内関係部署が連携した切れ目のない支援体制の仕組みづくりを引き続き推進していく。

【市長】

現在、新入学児童生徒への就学援助として、経済的理由により就学が困難と認められる家庭に対し、新入学児童生徒学用品費等として支援している。

なお、この経費につきましては、平成29年度より小学校・中学校へ入学する前年度の3月に支給をしている。

【教育長】

兄弟間のリサイクルなどの対応や、現行の就学援助制度で保護者のご理解をいただきたい。各学校では、保護者の負担軽減に努力している。

【教育長】

現在、既に全小中学校で持ち帰る準備は整っており、各学校において、通常の家学習に加えて、児童生徒の実態に即して1人1台端末を活用した家庭学習も実施されている。

まん延防止等重点措置期間中の給食後一斉下校時においても、家庭学習や家庭に帰ってからのオンライン授業で使用しており、文房具の1つとして活用している。

小中学校からは、学習カリキュラムに遅れはないと報告されている。

●千曲型コミュニティスクール
推進事業について

・講師となる郷土の名人・達人
などの人選はどのように行っ
ているか。人材のデータベースが
必要ではないか。

・いじめ、不登校、ヤングケア
ラーなどの課題解決のために、
コミュニティスクールでどのよ
うに推進していくか。

各学校では、コロナ禍で中止になった行事などの時
間を授業時間に充てるなどして、学習指導要領で定め
られた指導時数の確保に努めている。

【教育長】

各学校では、教育活動を進めるに当たり、議員ご発言
の「ふるさと学習」をはじめ、体験活動や学習支援など
に大勢の地域住民の皆様のご支援ご協力をいただいで
いる。

こうした学校支援をいただく方の人選に当たって
は、各学校が保有する人材データや千曲市生涯学習人
材バンク、地域の方からのご紹介のほか、長野県産業人
材育成支援センターの講師情報など、様々な人材情報
を活用している。

また、議員ご指摘のとおり、学校が地域との連携を積
極的に進めるためには、様々な人材情報を閲覧できる
ことが必要と考えている。

今後、教職員が利用する校務支援システム上から人
材情報が簡単に入手できる仕組みの構築を検討してい
く。

議員ご指摘のとおり、いじめ、不登校、ヤングケアラ
ーなど、子どもを取り巻く様々な課題に対し、その支援
の強化が求められている。

コミュニティスクールの役割の一つに学校運営への
参画があり、各学校には「運営委員会」が設置されてい
る。

委員会では、学校や地域、児童生徒のそれぞれの課題
を共有し、その課題解決に向けての熟議を重ねること
としている。

しかしながら、委員会での直接的な支援として、いじ
め、不登校、ヤングケアラーなどの課題については、個
人情報の取扱いなどがあるため難しいと思いますが、
学校目標にかかげる「いじめのない学校づくり」や「不
登校を生まない学校づくり」などには大いに熟議を重
ねていただきたいと考えている。

いずれにしても、学校職員と地域住民が対等な立場

で、学校の課題や、地域における子どもの様子を話し合うことを通して、将来を見据えた「目指す子ども像」の共通理解を深めるためのコミュニティスクール事業が活発化するよう、校長会などで指示していく。

【再質問】

・教職員は忙しすぎる。地域の方々が文化や歴史を伝えていくことでどのように係われるか。お示しいただきたい。

・中学生によるボランティアガイドはどうか。

・千曲市 20 周年の歩みとしての係わりはどうか。

【前田きみ子議員】

●新型コロナウイルス感染症について

・小中学生の休業に伴う保護者の休業補償は市内で把握しているか。

【柳澤眞由美議員】

●教育の充実について

・教職員の GIGA スクール構想の充実について

【教育部長】

すべての学校で学校運営委員会を設置している。そのなかで、学校目標に向かって地域の方々のお力添えをいただきたい。また、総合教育センターに専門主事を配置して引き続き情報発信をしていきたい。

【教育長】

ふるさと学習を基盤として、子ども自身がボランティアをやってみたいという気持ちの醸成が大事。

千曲市挙げての取り組みとなると思う。児童生徒も参画できればありがたい。

【市長】

申請等については、厚生労働省・都道府県労働局が窓口となっているので、市内の状況は把握をしていない。

【教育長】

今年度の 1 人 1 台端末導入時には、「子どもたちと同じ端末を使えるように」という声があったと認識している。

現時点において、小中学校の学級担任数を満たす台数は確保できている。

また、来年度以降は、児童生徒数の減少により予備機も生じることとなるほか、令和 4 年度は国の補助金を活用し、教科担任用の 1 人 1 台端末を購入する予定である。

・ヤングケアラーの実態調査について

県では本年度公立高校を対象とした調査を実施し、来年度は、小中学校等を対象とした調査を予定しているところである。

よって、今後、県の動向を見極めながら連携して対応してまいりたいと考えている。

また、相談、早期支援体制につきましては、ヤングケアラーは、深刻な児童虐待にもつながり得るものであることから早期の発見、支援が必要である。

ヤングケアラーという新しい概念を学校関係者で共有し、適切な関係機関や庁内部署につなげることができるよう努めていく。

【林慶太郎議員】

●「多様性の尊重」「ジェンダーレス制服」について

①屋代中以外の市内3校の現状はどうか。

【教育長】

市内3校ともに、「ジェンダーレス制服」の導入に向けて検討が進められている。更埴西中学校では、令和5年度から導入する予定となっている。

【再質問】

他中学でも検討組織が設けられているか。

当然、多くの皆さんの意見を聞く場は設けられていると思う。

②制度の変化による影響をどのように話され、対策をされたか。

どの学校でも「ジェンダーレス制服」を導入する背景について、ていねいに生徒・保護者へ説明されている。

これからの時代は「男女の社会的・文化的な区別がない時代であり、男女の区別をなくそうとする時代」であること。同時に「性的少数者(LGBTQ)への配慮」が重要であることから、「ジェンダーレス制服」の必要性が高まっていることを伝え、理解をいただいている。

また、導入にあたっては、事前に在校生や保護者、学区内の小学校の児童・保護者へアンケート等も行い、様々な不安を解消できるよう配慮してきている。新旧どちらの制服の着用も認める移行期間も設けることとし、今のところ特に混乱はないと聞いている。

【再質問】

髪型等についてはどのように

県内市内ともに今はそれほど厳しく制約はしていな

議論されているのか。

③多様性の尊重を学ぶ機会をどのように設けているか

【聖澤多喜雄議員】

●屋代南高校再編、存続問題について

・市長、教育長の決意は

●組織について、リーダー・司令塔起用のお願い

①旗振り役は市長か教育部か

い。

ご承知のように、現在、世界で取り組みが進められている持続可能な開発目標(SDGs)には、目標5として「ジェンダー平等を実現しよう」がある。この目標は、あらゆるジェンダーの格差や差別をなくすことが目的であり、性的少数者の存在を受け入れることも含まれている。

各学校では、この目標も受け、社会科・体育科・道徳・総合的な学習の時間をはじめとして、全教育活動の中で「ジェンダーフリー」「多様性の尊重」について学ぶ機会を設けている。

【市長】

両者の考えは一致しておりますので、代表して私からお答えさせていただく。

議員ご承知のとおり、昨年9月に、県教育委員会に屋代南高校を発展させる会の「提案・要望書」を提出した。

JR やしなの鉄道線の駅に近い高校を活用するとともに、千曲市の人口規模及び中学生徒数に応じた高校は是非必要であり、市内に高校2校の設置は当然であること。加えて「屋代南高校は、地元企業との連携が密で地域の信頼も厚いことから、存続を強く要望する。」という気持ちに変わらない。

また、今月末に県教育委員会から再編整備計画の案が示されるが、この2月25日(金)に開催された、屋代南高校を発展させる会臨時総会において、「たとえ学校名が変わったとしても、何らかの形で、今ある場所に学校を残すための活動を続ける。」という決議が了承されたので、会長として、その方針に沿ってしっかり取り組んでいく。

当然、発展させる会の会長であり、市長である私が旗振り役である。

また、司令塔、対策チームであるが、先程、ご答弁申しあげたとおり、屋代南高校を発展させる会の皆様に

は、「たとえ学校名が変わったとしても、何らかの形で、今ある場所に学校を残すための活動を続ける。」という決議をいただいている。

したがって、この3月に公表される再編整備計画案について、想定だが、5月若しくは6月ごろから、県教委主催による住民説明会が開催されると思う。

まさに、行政若しくは教育委員会が云々というよりも、発展させる会を構成する同窓会をはじめ、議会、経済界の皆様には、これまでの議論を踏まえ、それぞれの皆様の想いを声にして長野県教育委員会に届けていただければと考えている。

私自身も、先頭に立ち、誠心誠意、屋代南高校の存続・発展のために最大限の力を発揮していく。

②旧第4通学区の懇話会についての情報交換について

【教育長】

現時点で県教育委員会との情報交換はない。

●不登校児童生徒の状況把握として

【教育部長】

①不登校児童生徒の数と実態の把握について

長野県における令和2年度の不登校児童生徒の在籍比率は、小学生1.31% 中学生4.35%であります。千曲市の状況につきましては、県を下回ってはいるが、全国や県と同様に増加している。

また、市教育委員会では、各学校から毎月「欠席状況報告書」を提出させ、欠席理由や家庭での様子など児童生徒の状況の把握に努めている。

②初期対応について

まず、担任による状況把握を行っている。

具体的は、1日の欠席では電話連絡による家庭での様子の確認。2日連続欠席の場合は、改めて電話連絡を行い、状況の変化や様子の確認。3日連続の場合は、担任が家庭を訪問し、直接本人と会って現状確認をしている。

家庭からの聞き取りや本人の様子で登校渋りの傾向が見られた場合は、教頭等に報告をして、今後の対応を校内で協議している。

③不登校になる原因

毎年、文科省による「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」が行われており、千曲市の場合、不登校の要因として、小学生では、無気力・

<p>④教育センター・適応指導教室について</p> <p>⑤千曲市内のフリースクールについて</p>	<p>不安が最も多く、次に親子の関わり方である。中学生では、最も多いのは小学生と同じく無気力・不安で、次に親子の関わり方、いじめを除く友人関係をめぐる問題と続いている。</p> <p>千曲市では中間教室と呼んでいる。</p> <p>この教室では「千曲市小中学校中間教室設置要綱」に基づき、不登校児童生徒を対象に、適応指導員が一人ひとりに寄り添いながら、集団適応指導・学習指導・教育相談等、学校復帰に向けての指導援助を行っている。</p> <p>通級の状況ですが、埴生地区の教員住宅を教室としている小学生対象の「ふれあいルーム」には児童2名、また、市内4つの中学校の敷地にある「中間教室」には合計で生徒22名が通っている。</p> <p>市教育委員会で把握している市内のフリースクールは1校ですが、現在、通っている児童生徒はいない。</p>
<p>【再質問】</p> <p>中間教室は機能しているのか。</p>	<p>【教育長】</p> <p>現時点では、機能していないということはない。</p>
<p>●不登校児童・生徒に対する今後の方策について</p> <p>・教職員の不適切な対応や中間教室の改革について</p>	<p>【教育長】</p> <p>現在、市教育委員会では、今後の不登校対策の対応を探るために、学校代表・総合教育センター専門主事・教育相談室相談員・ソーシャルワーカー・教育総務課職員等でプロジェクトチームを組織し、千曲市のこれまでの取り組みや成果を検証し、現下のニーズに即した新たな取り組みを検討している。</p> <p>具体的には、県内19市の取り組みなどを参考として、本市に活かせる対策を検討している。</p> <p>教育相談員と保護者や児童生徒との間で、相談・懇談を重ねており、個々への寄り添い方、学校における支援体制のあり方などについて意見交換をしている。</p> <p>議員のご発言の中にもありましたが、児童生徒の心に寄り添った接し方や安心できる居場所の確保、教職員研修の必要性、児童生徒のこころを尊重しながら、いかにして社会性を身に付けていくかなどについては、いずれも不登校支援に係る重要かつ大切なポイントで</p>

あると認識している。

議員からは、今後の中間教室のあり方として、フリースクールの要素を含む運営についての提案をいただきましたが、先ほどの答弁でも申し上げましたとおり、中間教室設置要綱に基づいた運営をしておりますので、現時点では、そのような運営に転換することは考えていない。

しかしながら、これからの時代は、「児童生徒を取り巻く環境の予測が難しい状況」が予想されるので、不登校児童生徒への支援は「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、社会的自立を目指す必要があることなども踏まえ、将来を見据えた教育体制の見直しも必要ではないかと認識している。

子どもたちが来やすい、敷居の高くない中間教室を目指していく。

【再質問】

・ 中学卒業後の支援についてどのように考えているか。

大きな課題である。中学から高校への引継ぎはしっかりと行っている。その後は、家庭からの相談がないと介入していかれない。高校や他部署・他機関と連携しながら支援したい。

・ 不登校傾向の子どもについてはもうひと手間かける必要があるのでは。

中高連絡会などの機会を有効に活用し、庁内関係部署に繋げていきたい。

・ 「まな viva ちくま」との「お出かけシェアトーク」について市長の感想をお聞かせいただきたい。

【市長】

担任の交代があった方が良いとか、市内でフリースクールを立ち上げた場合に支援をいただけるかなどの要望をいただき、考えていますとお答えした。一人ひとりの子どもに気を配るということは、市民対応と同じと考える。

・ 保護者と教育の目線を合わせていくことが必要と考えるがいかがか。

教育現場では、保護者の声を聞きながら、丁寧に対応していきたい。校長会等を通じて周知していきたい。

【川嶋敬信議員】

●ポストコロナを見据えた施策について

・次世代を担う子供達への教育についての対応をどうするのかについて

【飯島孝議員】

●奨学金を利用する人への支援について

①当市の現状について

②今後について

③地元就職した場合の方策について

【教育長】

令和元年度に始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、学校においても長期にわたる臨時休業を余儀なくされるなど、学びの継続に大きな影響を及ぼした。

この間、学校では徹底した感染防止対策をして、GIGAスクール構想による1人1台端末の導入によるオンライン授業をはじめ、学校運営に様々な工夫を重ねながら、教育活動を継続してきた。そして、今も試行錯誤しながら、その時々々の状況に対処している。

今後、学校と市教育委員会は、新たな感染症や災害などの不測の事態が発生した場合にも、コロナ禍で培った経験を生かして、児童生徒の学びを保障していくとともに、教育活動を継続するための新たな方策も検討していく必要があると認識している。

また、そうした不測の事態が生じた場合に備え、児童生徒自らが、命を守るための知識や主体的に行動できるような資質・能力を育む教育を推進していく。そのために、各学校長には、何のための教育活動なのかを問い直し、教育計画を立案するように指示したところである。

【教育部長】

千曲市では、平成30年度から、就業目的で、千曲市へ住所を移転した人のうち、奨学金の貸与があり、その返還をしている場合には、返還金の一部を市が助成する「千曲市U・I・Jターン者向け奨学金償還優遇制度」がある。

申請件数が少ないことから、更にPR活動を行うとともに、他市の取組みを参考に、より効果的かつ利用しやすい制度を研究していく。

令和3年6月議会に滝沢清人議員からご提案いただいた「市が企業と組んで奨学金の肩代わり返済する」制度のほか、県においても、令和4年度から「奨学金の返還支援制度」の制度設計を進めるとしていることから、その動向を注視していく。現制度についても、再点

<p>【滝沢清人議員】</p> <p>●気候危機の現代にあって避難場所が最も大事</p> <ul style="list-style-type: none">・福祉避難所として利用する小中学校にエレベーター設置を検討すべきではについて <p>【再質問】</p> <p>戸上中のエレベーターは箱の設置だけで良いのでは</p>	<p>検をして千曲市にふさわしいものとしていく。</p> <p>【総務部長】</p> <p>本年度、市内すべての小中学校を福祉避難所として利用することとなったところであるが、現時点では、学校施設にエレベーターを設置する予定はない。</p> <p>【教育部長】</p> <p>現時点での教育活動としての優先度としてはまだまだである。</p> <p>【市長】</p> <p>何を優先するかということで難しい。現在の財政面を考えると、今の子どもたちへの投資としたい。</p>
--	--

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>代表質問</p> <p>【公明党 柳澤眞由美議員】 「成人年齢の引き下げについて」について</p> <p>民法の改正により、令和4年4月から成人年齢が20歳から18歳に引き下げられるのに伴い、千曲市における成人式の対象年齢や開催時期をどう考えているか。</p> <p>【再質問】 今ここで決めて答弁してもらえないか。</p>	<p>【教育長】 成人年齢が引き下げられるのに伴い、成人式典の対象年齢の変更が必要かどうかについて、全国的な議論になっており、市でも検討を始めた。有識者からの意見聴取と、令和4年度で18歳から20歳までの成人当事者へのアンケートを実施している。 令和4年度は、3つの年代が一度に成人を迎えるが、全員を一度に集めて開催することはむずかしいため、1つの年代に絞ることを基本に意見を集約している。 それらの意見を勘案し、早期に方針をお示ししていく。</p> <p>現在、アンケートの回答が届いているところなので、集約後、早期にお示ししたい。</p>
<p>個人質問</p> <p>【宮下繁明議員】 「市民が利用する社会教育施設の開閉館についての基準は」について</p> <p>体育施設については使用不可、創造館、文化会館等は利用制限されている</p> <p>市が管理する施設について、開館、閉館、一部閉館についての明確な基準はあるか。</p>	<p>【教育部長】 市教育委員会では、所管する施設ごとに、県独自の感染警戒レベルに対応した基準を設けている。 これを標準例とし、利用を継続する場合は、施設の特性を踏まえて制限や感染対策をして開館とし、それをおこなってもなお感染リスクが高い場合は閉館としている。</p>

【林慶太郎議員】

「屋代公民館の本館としての機能の充実について」

東部地区では、あんず観光会館、倉科コミュニティセンター、雨宮地区転作促進研修センターが、公民館活動の中核となっており、本館である屋代公民館へのなじみが薄い。

地元移譲により、これまでと同様の分館活動ができなくなることがあるとすれば、屋代公民館の機能充実も併せて行うべきではないか。

「公民館の存在意義を守り発展させていくための施策について」

分館建物の地元譲渡により、他地域との不公平感は是正されるが、時代の変化とともに地域の横のつながりが希薄化し、社会教育、地域交流という公民館の存在意義が低下していく心配がある。それらを守り、発展させていく施策はあるか。

「成年年齢の引き下げに伴う、成人式の開催内容について」

成年年齢の引き下げに伴い、成人式の開催内容についてどのように考えているか。

最終的には、コロナ感染症対策本部会議の承認を経て対応している。

【教育部長】

それら3館は建物の地元譲渡に向けた協議を始めたところである。

屋代の本館・3つの施設は、これまでも良好な協力関係にあったが、各地元が3館を最大限に活用してきたことで本館をあまり利用せずに済んでいたともいえる。

3館が地元に移譲される際には、地元住民の間で十分に意見交換がなされ、より良い地域活動ができるよう支援していく。

公民館を取り巻く環境の変化を見極め、世代間交流や、地域の連帯意識の向上に努めていく。

代表質問で答えたとおり、成人式典の対象を定めるための意見聴取を実施している。

早急に方針を定め、議会にも話したうえで公表する。

全国では20歳を対象とする自治体が多いが、千曲市の対象年齢が20歳になった場合、18歳成人者に対し、義務や責任への自覚を促す周知を徹底していく必要があると考えている。

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>《代表質問》</p> <p>【金井文彦議員】</p> <p>市民プールの今年の方針について</p> <p>公共施設個別施設計画では、市管理の唯一の市民プールであり、多くの市民利用があるため定期的な施設改修を施し、施設の維持を図るとされていますが、コロナ禍において2年続けて開園が見送られています。来年度の開園の見通しと今後の施設修繕予定について伺う。</p> <p>【再質問】</p> <p>プールの現状を見ると、入口階段の劣化や施設内手すり等の鉄骨錆や草の繁茂の状況から、利用者の安全が担保されているのか心配であり、機器等の動作確認やメンテナンスがしっかりされているのか、適正管理や有効活用の観点からみても疑問を感じるが、その点を伺う。</p> <p>【意見】</p> <p>継続使用するのであれば、しっかりと管理し、継続使用しないのであれば、以前から提案している民間の力を借りて有効利用すべきと考える。是非、利用者の安全だけは担保して開園する様に願う。</p>	<p>【市長】</p> <p>新型コロナウイルス感染防止の観点から、令和2・3年度の2か年、営業を中止した。この間も中止が決定するまで、開園に向けた準備を進めてきた。来年度の開園に向け、プール槽の清掃、ろ過機の点検、受水槽の点検等行い、市民の皆さまの期待に沿えるよう準備してきた。</p> <p>なお、今後予定されている施設修繕については、休憩スペースの天幕張替、ろ過タンクの漏水修繕、トイレの一部様式化を予定しており、計画的に進める。</p> <p>【教育部長】</p> <p>昨年秋に止水前点検を実施、再稼働の確認している。ご指摘の入口や鉄骨等については、予算の中で早めの対応をする。</p>